

みずほCustomer Desk Report 2019/02/25 号(As of 2019/02/22)

国際為替部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	110.78
TKY 9:00AM	110.71	1.1340	125.55	1.3042	0.7108
SYD-NY High	110.90	1.1356	125.77	1.3080	0.7150
SYD-NY Low	110.56	1.1317	125.38	1.2970	0.7082
NY 5:00 PM	110.68	1.1333	125.38	1.3056	0.7128
NY DOW	26,031.81	181.18	日本2年債	-0.1800	0.00bp
NASDAQ	7,527.55	67.84	日本10年債	-0.0400	0.00bp
S&P	2,792.67	17.79	米国2年債	2.4964	▲3.23bp
日経平均	21,425.51	▲38.72	米国5年債	2.4702	▲4.24bp
TOPIX	1,609.52	▲3.98	米国10年債	2.6528	▲4.14bp
シカゴ日経先物	21,320.00	▲40.00	独10年債	0.0925	▲3.35bp
ロンドンFT	7,178.60	11.21	英10年債	1.1555	▲4.40bp
DAX	11,457.70	34.42	豪10年債	2.0940	2.10bp
ハンセン指数	28,816.30	186.38	USDJPY 1M Vol	5.41	▲0.32%
上海総合	2,804.23	52.43	USDJPY 3M Vol	6.10	▲0.30%
NY金	1,326.60	-1.2	USDJPY 6M Vol	6.79	▲0.22%
WTI	56.80	-0.16	USDJPY 1M 25RR	-0.83	Yen Call Over
CRB指数	184.06	0.65	EURJPY 3M Vol	6.84	▲0.27%
ドルインデックス	96.51	▲0.10	EURJPY 6M Vol	7.54	▲0.20%

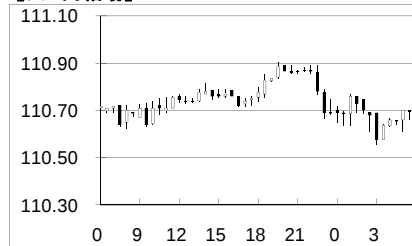
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
2月22日	08:30	日 全国CPI	1月 0.2%	0.2%
	08:30	日 全国コアCPI	1月 0.8%	0.8%
	08:30	日 全国コアコアCPI	1月 0.4%	0.4%
	16:00	独 GDP(前期比)・確報	4Q 0.0%	0.0%
	18:00	独 IFO企業景況感指数	2月 98.5	98.9
	18:00	独 IFO(期待指数/現況指数)	2月 93.8/103.4	94.3/103.9
	19:00	欧 コアCPI・確報	1月 1.1%	1.1%
	19:00	欧 CPI(前月比/前年比)	1月 -1%/1.4%	-1.1%/1.4%
	22:30	加 小売売上高(前月比)	12月 -0.1%	-0.3%

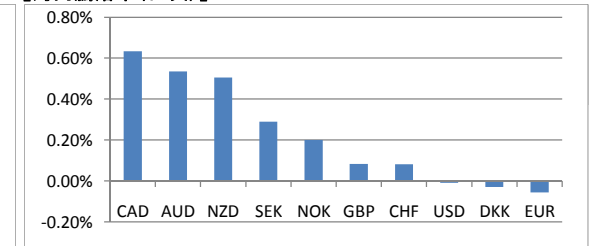
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
2月25日	14:00	日 景気一致指数・確報	12月 -	102.3
	22:30	米 シカゴ連銀全米活動指数	1月 0.15	0.27

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	110.70-111.20	1.1320-1.1370	125.40-126.00

【マーケットインプレッション】

先週金曜日のドル円は110円台後半での狭いレンジ内での推移となった。アジア時間110.71レベルで取引を開始した後は、トランプ米大統領と劉中副首相の会談を控える中、落ち着いた値動きとなったが、欧州時間入り後からは米中貿易交渉進展への期待感の高まりを受けて110.90まで上昇となった。北米時間入り後は米金利低下を受けドル安の展開に110.56まで反落し110.67レベルでクローズ。本日のドル円は引き続き110円台後半を中心に動意に欠ける展開を予想。米中通商交渉進展への期待が高いことに加え本日は5・10日に当たるため輸入勢によるフローもサポートとなると考えられる。一方で、米金利の低下や、新規材料に欠ける事からも積極的に上値を追う展開は想定し難いか。

東京	東京時間のドル円は110.71レベルでスタート。前日FOMC議事要旨が発表されるも市場の反応は限定的となり、またトランプ米大統領と劉中副首相の会談を控えていることもあり110円台後半の見慣れた水準で動意薄く推移。結局、東京時間の値幅は20銭程度と狭いレンジでの値動きに終始し、オープンとほぼ同水準の110.77レベルで海外へ渡った。
ロンドン	ロンドン市場ドル円は新規材料難から110.72-110.90と小幅な動きとなり110.86レベルでニューヨークへ渡った。ユーロは1.1337レベルでオープン。2月独IFO業況指数が98.5と6か月連続で低下し景気減速懸念を示す結果となったことを受け1.13台前半で推移し1.1327レベルでニューヨークへ渡った。ポンドはブレグジットを控えた先行き不透明感から軟調地合いとなった。1.3030レベルでオープン。英内閣に閣外協力している英領北アイルランドの地域政党・民主統一党(DUJ)が北アイルランド問題の「バックストップ(安全網)」が政府のEU離脱案から削除されない場合メイ首相の離脱案を支持しないと強調したことや英労働党から今週9人目の離党者が出たこと、また英産業連盟の4半期調査で英小売業界の投資意欲が7年ぶりの低水準となったこと等を材料に1.2980まで売られ、安値圏のままニューヨークへ渡った。(ロンドン・トルフィー 00531 444 179 西海)
ニューヨーク	前日の報道で「米中が貿易協定のため書作成に着手」と伝わったことや、トランプ米大統領と中国の劉鶴副首相の会談が控えている中、米中通商協議の進展期待に海外市場のドル円はじり高推移。一時110.90まで上昇し、110.86レベルでNYオープン。主要な米経済指標が予定されていない中、朝方は米金利の低下を横目に110.84まで下落。その後、ウリアムズ・NY連銀総裁とデーリー・SF連銀総裁の対談が行われたが、目新しい発言はなく、ドル円の反応は限定的だった。その後110.77まで戻すが、クラリファード副議長らの講演で「世界的な中立金利水準の低下は当面続くだろう」、「先入観を持たず金融政策の枠組みの見直ししていく」と伝わり、米金利が一段と低下し、110.56まで反落。終盤に米中通商協議の一環でムニース・米財務長官が「米国と中国は通貨に関して最終合意に達した」と発言したが、週末を控えているためか反応が薄く、110.60近辺で小動きとなり、110.68レベルでクローズ。一方、海外市場のユーロは独2月IFO業況指数が予想を下回ったことを受けて1.1326まで下落し、1.1327レベルでNYオープン。海外時間の流れを引き継ぎ、朝方は安値1.1317を付ける場面も見られたが、米金利の低下を受けて1.1356まで反発。ビルロッド・カロー・中銀総裁の「春から夏にEU圏経済は回復する」、「TLTROについては時が来ればECBは決定するだろう」との発言に上下する場面も見られたが、動きはレンジ内に留まる。その後、週末を控えた狭いレンジでの取引となり1.1333レベルでクローズ。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなされるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償のみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当:綱島